

人間ドック

白 川 渥
え・中 西 勝



昨年、年も押し詰まった二十二日から一週間、布引の市立病院の人間ドックにはいった。別にとりたてて軀に異状を感じたわけではなかったが、私もすでに五十の半ば、一度精密検査を受けてみようと言うのが、かねてからの宿願であった。それに、毎年のことながら、歳末の騒々しさは苦が手である。それからズラかって、病院の個室で、一人ひっそり本でも読んでやろうと言う狙いもあった。

生来頑健のおかげで、私はまだ入院生活の経験がない。病院と言うところも、看護婦さんたちに講演に行ったきりで、とんと不案内な世界であった。人は未知の世界に不安と恐怖を抱く。病室の廊下を通っただけでも、あのうす暗いじめじめとした陰湿な感じがやりきれない。思いきってドック入りを決心してみたものの、もし歳末という絶好のチャンスでなかったら、又ぞろのびのびにな

つていたであらう。

一週間の精密検査の結果、さいわいに何の異状もなかった。眼科の検診で眼鏡の度のまちがっていたことが発見されたのと、皮膚科で、喉に出来ていた米粒ほどのイボを焼去してもらったくらいで、怖わ怖わ入院したものの、まことにあつけない結果であつた。

怖わ怖わと言え、じつのところ、一つだけ、気がかりなことがあつた。血圧の問題である。別に異状の自覚はなかったが、わが家は高血圧の家族である。現に父母ともに卒中で倒れている。そして私も亦四年ほど前に、医者からその注意を受けてガクンと来た男である。その時は、肩凝りのあぐく、しぶしぶ近所の医者の門をくぐつたのだが、百六十と聞かされて、愕然とした。中一日置いて、今度は専門医の診察を受けたところ、百八十と言う。その日、医者からの帰途、私はふところのタバコを川に抛つて、絶対禁煙を誓つたものである。さつそく血圧測定器を買ひ込んで素人測定をしたり、高血圧療法と称する書物を読み込んだり……。いまにも父母の轍を踏むかと、そのところ当分は戦々競々たるものであつたが、そんな養生は一ト月とはつづかなかつた。

わが病氣を自覚して、周囲を見廻してみると、同病の友人がいくらでもいた。その先輩たちから、氣にしないのが何よりの療法だと聞かされて、禁煙もいつかとのモクアミになった。買ひ込んだ血圧測定器も押し入れに抛り込んだままで、あれからざつと三年。——平然と構えて来たとは言ふものの、ありようは、臭いものにふたをした自己韜晦の明け暮れだつたと言つていい。

ところが、その血圧も、今度の精密な測定の結果では、わずか百三十台である。少くとも百六七十は宣告されるものと観念していた私には、信じられぬ低さであつた。

「その器械は故障しているんじゃないやありませんか？」

うっかりそんな暴言を吐いてしまった。

「病院では、こわれた器械など使いませんわ」看護婦さんは苦笑しながらも、翌日は別の器械で測つてくれたが、やはり信じ難い低さであつた。なぜ血圧が下がつていたか？——思いあたることが、私には二つしかない。一つは、二年ばかり前からはじめたゴルフである。そのため、中年肥りの軀が、二貫目近く軽くなつてゐる。たぶん、それが最大の原因だろうと主治医の博士も言われる。もう一つは、近年、茶を喫む癖がついてしまつたことである。抹茶の効はものの本にも書いてあるが、私は机上に抹茶の道具を置いて、日に幾度もたてて喫んでいる。それが効を奏したと言うのであらうか。

ともあれ、そんなことで、芽出度く退院したわけだが帰宅した途端、茶の間の炬燵で、待ちかまえていたように、ワツと子供たちの歓声が上がった。

「お父さん、もう誰も同情しないわよ」

この数年、家人から高血圧を理由に病人なみの待遇を受けて、縦の物を横にもしない横着を決め込んでいた私だが、もう今日限り、その待遇を停止すると言ふ宣告である。

皮肉である。健康体のお墨付きを貰つたおかげで、とんだ不自由なことになつてしまつた。

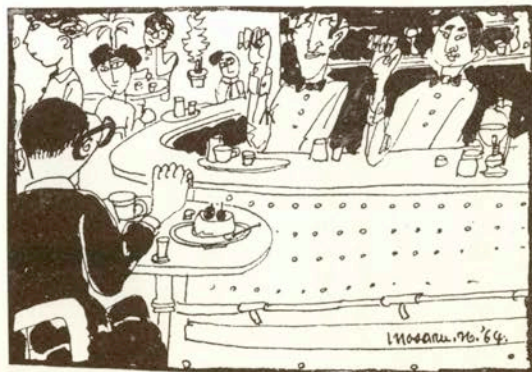
神戸のこと 手当り次第

淀川 長治
え・中 西 勝

「もう七時まえでっせ、早ようせんと、まに合いまへんでえ」。私はとくに表に出ていたが姉ふたりが、あのリボンこのリボン、あのぞうり、このぞうりで戦争。やつと家じゅう揃って聚楽館の二階正面にせいぞろいしたときには、もう舞台カーテンが上るといふたんば。大正十五年その昭和になるまえの十月末のあの晩がふと思ひ出された。アメリカのデニシウン舞踊団。

ことしの春は「京劇」から幕があがった。三晩つづけて楽しんで、あの古典にふと大正の香りを嗅いで、それで聚楽館を思ひ出させた。

こんどの京劇は第四回の若手ぞろいで、他界した梅蘭芳の静かな美しさと品の良さはとても求め得られはしなかったが、それにしても美しかった。能も文楽も歌舞伎も浪曲もがここに源を発したかの感じ。若手ぞろいのため私の大好きな八年前のユワン・シーハイ（袁世海）が来ていないのが残



念だったが、それにしても北京の美術品をそのまま日本で見られるありがたさにうっとりした。

想えば大正十一年のアンナ・パヴロアに感激したのも神戸の聚楽館。日本の入口の神戸は日本で最初に海外の芸術家を迎え、当時それをいち早く見物して育った私は幸せだった。

×

つい最近、大阪の若い人が「気がいらいらすると神戸にいきまんねん、するとなんやスウーと落ちつきます」またもう一人が「シャツやネクタイ、僕のこれ、みんな神戸で買うことにしています」。

これをべんちゃらと一瞬思ったが、二人がいかにほんとうに神戸をほめている様子が見えて、こんなことは私には久しぶり。

東京で神戸産の人に逢えば「もう、いやらしいなつても、あのけつたいな元町。トーア・ロードの気分？ あほらしい、もうそんなもん、ありま

「かいな」これが挨拶がわり。

それが東京の人が最近神戸に行ってきた「やっぱりいいわねえ、元町、なんだか神戸って感じねえ、あたし好きだったわ。」

最近の神戸、最近の神戸……このサイキンが私に興味を湧かす。神戸が、どうやら、神戸の良さをとり戻して。イキに、個性をとりもどして。そうなりつつある……らしい。

×

ところでこの「神戸のこと手当り次第」も、十日エビスのきつ、きよアメそのままに、のびしにのびし、ひっぱりひっぱり、みなサマに大変御迷惑を相かけてきましたが、この十九回をもちまして、どうやらトマトも投げつけられず退場いたすことと……そう嬉しそうなお顔をなさらないで終りまで聞いて頂きたい……そうなのでありますが、ウラをかえして（へへッ）次号から形を変えて再登場。

×

また四月半ばには神戸に行つて、これは須磨寺にある先祖代々のお墓にもおまいりしてという用件もありまして、そんなこんなで、神戸でなんとなく「神戸っ子」の読者さんたちとヒザつき合わせて「お話の会」でも持てたならと、そんな楽しさが持てたならと思ひながら、私のことで、あるいはこのプランもう少し先の初夏になっちゃうかもしれないが。必ずそのころまでにはと言うう私ひとりのこれはひそかなお楽しみ。

実は去る十二月初め大阪に用件あり、飛んで朝だちの飛んで夕べ帰りのツバメ旅行で、目と鼻さきの我が神戸に立ちよれなくムショウにそれで神

戸が恋しくなつて。その大阪で、梅田ちかくの喫茶店で、これは三十分の時間のエアポケットみたいなものが出来、ひとりでその喫茶店に、ほんやりと、コーヒーを注文し、伊丹の姉にも電話しようか、私のいとこの生れたての赤ん坊の顔も見ようか、いやいや電話すると今夜は帰れなくなる。いろいろそんなことを考えて、ふと目の前に持ってきたコーヒー、それにはプリンがついていた。自分はいつたいプリンを注文したのであろうか。プリンを注文しようかなアとはたしかに思った……けれども、注文はしなかった。それなのに持ってきた、これはおかしい。そこで「あの、プリンは、たしか注文しませんでしたか……」すると行儀よく一礼して「ハイ、これはオコロザシです」。

その表情も変えないで大まじめな顔で若い女給仕さんの「オコロザシ」の一言で私は一瞬とまどいた。それでエツと顔を上げると「あのパーテンさんが、えらいアンタのファンなんです」と言う。パーテン？ 私はいきなりとそちらを見た。

するとパーテンダアから三人の若いコック帽の白服サンがニコニコ顔で手をニギニギのかっこうで私を見て笑っていた。ハハアンそうですか……とはわかったものの「オコロザシ」が面白くて私はそのクロミツのベツタリのサクランボウの三個ものつかった特別製らしきそのプリン。それを頂くかっこうをしてその皿を両手に持ち上げて、そして……頂いた……もののオコロザシを頂いているあいだじゅう、尺八を持ち胸に小箱をぶらさげたこむそうみたいな気になって、どうお礼を言っているのか、これは生れて初めて経験の見知らぬ喫茶店のタダグイ。

（映画評論家）

孫

阪 本 勝

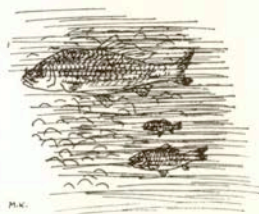
私は祖父というものを知らない。私が生まれたときには、父方の祖父も母方の祖父も、すでにこの世を去っていた。しかし祖母は、父方も母方も、私の少年時代まで健在であった。だから祖母というものの愛情についてはかなりこまやかな点まで記憶している。

ところでいま私にはふたりの孫がある。孫の立場からいうと、ふたりとも祖父というものを知っているわけで、この点祖父というものを知らない私にくらべ、ふたりの孫はしあわせだと思う。そう思うと、孫たちに対し、よい祖父であってやりたいという悲しい願いがいつも私の心のなかにある。

孫のひとりとはことし十六才で高校一年生である。名は泉という。私の公職追放中、有馬温泉に浪居していたところに生れた子という意味と、阪本家中興の祖、阪本泉之守という名にちなんで、私为名づけたのである。

そのつぎに生れてきた女の子は、当年六才でこの春小学校に入学する。阪本小風（こなき）という。これまた祖父たる私がつけた名前だ、これについてはいささか話がある。

一九五七年、私はアメリカ政府の招待で、二ヶ月間全米を旅行した。出発のころ、長男彩児の妻



喜 益 松 小

がにんしん中だったので、アメリカ旅行中に誕生するだろうと思い、出発前にあらかじめ名前をつけておいた。

「もし男の子が生れたら、鷹丸（たかまる）と名づけよ。もし女の子なら小風と名づけよ」と言いのこして私は旅立った。

忘れもしない、シカゴのホテルに泊っていたとき、「小風誕生す。母子とも無事」

という意味の電報がきた。私はすぐ返電をうった。

「小風誕生をはるかによろこぶ」

その孫がことし小学校に入学する。

月日の過ぎゆくことのはやさ、はかなさが身にしみる。そこでつくづく思うことには、私の五代の生命の流れの、ちようとまんなかになっていることになる。祖母、父母を過去にいただき、子と孫をわがあとにかかえる生命の川のはかない浅瀬をいま渡りつつあるわけだ。

ところでこのふたりの孫に対する愛情は、孫を持つてみなければわからないよく世間でいうように、形容のできないいとしさ、かわゆさわが心たちこめて、だらしなにかぎりである。

せんだって、小風がうちにやってきて一泊した。晩はおばあちゃんといっしょに寝た。あくる

朝おばあちゃんがさきに起きてきたあと、なんべん寝室をのぞきにいったことか。暗い寝室からひとりで出てこれるかしらんと心配そうな顔をして居間にほんやりしていると、眼をこすりこすり、まぼろしの人形のようにふわっと現われた。私はその髪を撫で、ほったにキスし、膝の上にだっこして、しばらくだまっていた。すると冬眠からさめた魚のように、まもなく動き出した。ふわふわとおさげの髪を揺るがせながら六才の稚魚は部屋のなかを遊泳あそばした。

もう孫は生れないだろう。すると小風は五代にわたる生命の川の川しにもあたることになる。その川しにも泳ぐ稚魚を見ながら、人生の中老を送るということは、何というしあわせだろう。ながいいのちの川に身をうかべて、はるかに祖母と父母の愛情の記憶を胸にいただき、さらに孫の細い髪を撫でてわが膝に抱きしめる。これにまさる幸福というものがあるだろうか。人生の幸福やよろこびは、ほうらい山中にあるのではない。稚児門にたわむると歌った陶淵明の心境にこそ真実の悦楽を見出すべきものだ。

泉は秀才だ。「おじいちゃんの遺伝ですな」と人がいうと、父の彩児はごきげんが悪い。「隔世遺伝というやつかな」と私が冷かすと、むっとして唇をとんがらかす。それがおもしろくて、よい冷かしたくなる。泉いわく、

「数学なんて、あんな楽なものあらへん。みんなんで数学でけへんのやろな。作文で百点とるのはむづかしいけど、数学は百点とれるようにできてるんや。ゼロか百や。八十点や九十点なんておかしい。」

事実彼は、数学に関するかぎり、いつも百点をとってくる。これであたりまえや、と十六才の小坊主はうそぶいてござる。エライ孫が生れて来よったもんやなあ、とおじいちゃんは毎度ためいきをつくのである。

「おい泉ノ」

と祖父はしばしば孫にいう。

「おじいちゃんは東大の経済学部を出た。しかし世のなかの学問で、いちばん下等でバカげたものが経済学というもんや。おまえは数理哲学をやる。数理哲学こそ学問中の学問や。」

すると少年は眼を輝かせて

「ウン、ほくやる。数理哲学なんて想像するだけでも胸がわくわくする……」

「えらいノ」

おじいちゃんは、ほれぼれとして孫の顔を見つめる。

「おまえのおとうちゃんのやつて医学なんてあんなもの学問じゃないよ。あんなものは一種の記録学で、学問の部類にはいらん。おまえは一生を学問らしい学問にささげえ」

おじいちゃんは、そういうながら、陶然と一ぱいの盃をかたむける。孫こそ最上のサケのサカナだ。すると少年はちょっと顔をあからめて、こんなことをいった。

「おじいちゃん、おこずかいちょうだい」

さあ、おいでなすったと、

「何に使うんだ」

「本代です。ノーベル賞を獲得するには、何より本代が必要です」

負けた。

(随筆家)



素晴らしいカット

十字屋洋服店

元町通5丁目

④ 0 2 1 9

④ 2 9 3 8



オリエンタル ホテル 新館
9月1日開館



オリエンタルホテル
神戸市生田区海岸通6
電話(3)7771~9



写真は深水山陽電鉄社長

□神戸っ子放談□

播州工業地帯と阪神工業地帯の

中心都市「神戸」

深 水 惣 吉 山陽電気鉄道KK社長

山陽電鉄の深水惣吉社長は、もの静かな、スタイルの紳士。しかし、『私は電鉄事業は絶対に公益性が優先』と言い切る人だし、信念は絶対にまげないと言う人でもある。

「神戸っ子」に親しまれる山陽電鉄

「私は、山口県出身で、昭和5年に宇治川電気（現在の関西電力）に勤務して長い間大阪にいましたね、昭和17年4月1日にはじめて神戸にきて、山陽電鉄にはいったんだから、神戸は22年になるし、神戸っ子になりましたね……。山陽電鉄がむかし、宇治電と呼ばれていたのは昭和2年に宇治川電気が買収してしましたので、昭和8年に山陽電気鉄道として独立するまで、そう呼ばれていたんですよ。——戦争では、この山陽電鉄は大きな被害を受けましてね、明石車庫は爆撃でやられて大半の車輛を失うし、姫路など重要な駅は炎上して寸断されたものですよ。——現在では、昭和31年から年次計画をたてまして、急ピッチで設備を整備しているんです。今年度は第5次年次計画が進捗中です。これと言いますのはご存知のとおり、播州工業地帯が大きくクロゾアツプされ、山陽電鉄が主要幹線としての役割を果たすようになってきたためなんです。経済圏が伸展する根幹をなすものは、やはり交通で、鉄道、道路が整備されないと開発は望めないと思いますし、山陽電鉄でも経営の基本方針をその線に沿わせてあるんです。この第5次計画が完成しますと、輸送力は強化されるし、電鉄の諸設備も近代化されます。全部アルミで設計された新鋭車輛が6輛はいりますし、新しい車庫が、東二見に建設され現在の明石車庫の3倍の収容力をもつ車庫も完成するのです。この外にも車輛増結を考慮して、ホームの延長もどしどし進められている訳です。もちろん、第5次計画が完成しますと引続き、年次計画を立て、更に整備を進めて行きますよ」

いい足を提供したい

「私の電鉄経営の理念と言えば、皆さんに、いい足を提供することだと考えています。山陽電鉄は電車のほかに、バス、タクシーも同時に経営していますが、総ては

徹底したサービスにつながっている訳で、いい足を提供することに努力しているのです。

私はこのいい足を提供する条件として三つのことを強調して実践しているんですよ。

- 一、絶対に安全を確保して事故防止を計ること。
- 一、定期性を厳守して、ダイヤを守ること。
- 一、スピード化と快適な旅をしていただくこと。

このなかでも、事故防止には万全を期していますよ。事故防止の最良の策は結局無理をしないことだと思っています。人的にも物的にも無理をしないけません。私たちとしても、現場の末端に至るまで、四六時中、指令を出して、従業員の心をひきしめ、事故防止につとめているんです。且って「鉄道事業の斜陽化」と言うことが話題になった事もありますが、日本の場合この考え方は、当はまらないと思いますね。少なくとも大都市に乗り入れているような近郊鉄道はますます需要が大きくなると確信しています。比較的大量の輸送ができますし、安全度も高いし、運賃も低いと言う利点は絶対的なものだと言えます。

電鉄と言うのは強い公益性をもっています。一般の物価に比較して、運賃が比較的低い上に、定期乗客は七割引、学生定期は九割引という大巾な割引を行っていることをご覧いただいても電鉄事業の公益性はご理解いただけると思います。ですから従業員には、社会事業と直結した仕事だから、誇りをもって勤めるように励がましているんです。山陽電鉄では、この外に、垂水・舞子地区、高砂・伊保地区などを中心に宅地造成を行い、住宅難の解消に一役買って、安くて便利な住宅を提供しよう頑張っています。

結局、私の考えでは、電鉄業は、強い公益性をもっているけれども、勿論、コマーシャル・ベースをはずすことも出来ませんから、この、ふたつの矛盾をどう調整して行くかというところが難かしいと思っているのだが、私としては、公益が優先するものだと言い切ることが出

来るし、電鉄事業はそう言った社会的使命をもっている
と思っています」

神戸らしい清潔なレジャー・ センターを

「それに『神戸っ子』には、お馴染の、鉢伏山、旗振山の観光設備には、神戸らしい清潔な、家族ぐるみで楽しめるレジャー・センターを目指して、建設を進めていますが、特に昨年8月に竣工した、ウォーター・スコープは、非常に人気があつて七色の噴水が色いろな形に変化するという楽しいもので大体一場が40秒で25場面に変わります。あの須磨浦公園展望台は最初計画されたとき、反対もあつたんですが、私の見たところ、あの景観は展望台から須磨の海岸線を望むとき、旗振山から淡路島を臨むのとは全く趣きが変わり、非常に変化もあるしその上、よくまとまっているので、絶対自信があつて進めたもので、あの山頂までのロープウェイは、現在、年間90万人の観光客を集め、当初の予想を遙かに上回る好成績をあげているので、更に諸設備を充実させて行き度いと考えています。もちろん、今後とも、清潔なレジャーの場として進める方針は変わりなくやりますよ。例えば山上で、絶えず音楽を流していますが、これも、俗な流行歌などは一切、避けているし、あの須磨浦の景観の特色である、山の緑と海の青を大切にして、景観をそこねるような、広告などは禁止しているんです。それに山頂まで水道も引いていますよ。ちょっと申上げたのは、この景色を案外、地元の神戸っ子の方がご存知ないことです。五月のつづも美しいし、夜も涼しくていいところですから、ぜひご利用いただきたいものです」

播州工業地帯と阪神工業地帯 の中心地

「現在、神戸高速鉄道の工事は着々と進められて、当初の計画どおり、大開通の工事も完了しましたし、三宮附近の工事も進められていますので、42年度には開通の運びになるものと思いますが、これは、都市計画に沿つて工事を計画しなければなりませんのでね……」

この神戸高速鉄道が完成しますと、山陽電鉄としましては、普通電車を、阪神の御影駅まで、阪急は六甲駅まで乗入れますし急行車は、姫路、神戸、大阪、京都間直通になり、これらの四大都市を完全に結ぶことになりました。

私はこれからの神戸には素晴らしい将来があると思っています。と言いますのは、播州工業地帯と、阪神工業地帯の中心都市になりますし瀬戸内の中心点にもなるのですから、位置としては絶対優位な地点になると思うんです。

元来、神戸は他都市と違った非常に魅力のある町なんです、その特色をうんと生かして、よりチャームिंगな、独特の町づくりを進めることが、神戸の繁栄と結びつくと思いますよ。神戸市で積極的な工場誘致を計画されるのも結構ですが、神戸をもっと魅力のある町にして、他都市から、神戸にどうしても足を向けるような、綺麗な町にしたいですね。例えば、同じ買物をするにしても、大阪にも、姫路にもない、リファインドされたものが売られているとか、高級なシャレたものがおかれていると言った魅力づくりに徹したら、もともと恵まれた都市である神戸はもっと美しく魅力のある町になると思いますよ。幸い神戸は、海と山に恵まれ、他の都市に比べて空気もきれいだし、水もいいし、食べるものはバラエティに富んでいて美味いし、総てに恵まれた都市だから、どんな小さなことでも、町の魅力をつくりだすようにさえして行けば、この自然の宝石がもっと美しい輝やきを増すことと思います。」

(文責・小泉康夫)

経済ポケット

ジャーナル

売り上げにひびく
暖冬異変

雪は情緒があつていいが、商売がからむとふところにはひびくことになる。スキー場では食糧を買入れたが、これがさばき切れないとあつて雪の降らない空を眺めて恨めしい気持ちを晴らしようがない。昨年は豪雪によつて但馬地方は悩まされたが、こゝしは「無雪災害」。

この暖冬によつて影響を受けるのはスキー場ばかりでなく、百貨店、商店街も、暖房具、衣類の売れ行きが悪いと深刻な顔。神戸の四百貨店の十二月の売り上げ高は五十一億九千三百十四万八千円で、三十七年十二月に比べてわずかに一四・九%伸びただけ。

百貨店や商店街では早くも小売り半額奉仕をやつてゐるところもあり、兵庫県百貨店協会の藍木寿子さんは「売れないと見こしてやゝつてゐるんでしようが、二月にやることを一月にやつてゐるんですよ」とボヤクこ



としきり。大丸神戸宣伝部次長の鈴木龍一氏も「暖冬と経済見通しの暗さがひびいた。お客は実質本位で、財布のひもが固くなった。和装ブームも三十七年がヤマでした」とあきらめきれそうにない顔をしている。

張り切る阪東調帯ゴム KK 雀部会長



雀部会長

老いてますます意気盛んというのと叱られるかもしれないが、阪東調帯ゴムの雀部昌之氏は毎日午前十時すぎから午後六時ごろまで精力的に働いている。多忙なため映画を見るチャンスもあまりないといふが、経営的な感覚からか「アラビアのロレンスは経営面からみても参考になりますよ」といわれると一生懸命にメモをとるほどの研究熱心。

この雀部会長が同社の社内誌「ぐつどういる」の一月号から自伝をのせてい

る。雀部会長が入社したのは明治四十年三月、昭和十七年に社長になり、戦後の混乱期を乗り切つて三十七年五月に会長になった。自伝は幼少年期から始まつて会長になるまでの全生涯をトレースする予定で、会長も昔日の記憶を頼りに執筆に精出してゐる。執筆の動機は社内報編集者からの求めに応じたもので、どんな経営哲学がとび出すか期待されており、全部終ればまとまつたものにしたいたいとも編集者は言っている。

意欲的な神戸青年会議所

神戸青年会議所（理事長石野成明氏）は三十数名のメンバーで発足してから六周年を迎え、いまや会員は約二百人近くになり一月二十二日午後六時からオリエンタルホテル大ホールで盛大に総会と懇親会を開いた。まずあいさつに立った石野理事長は豊かな明るい社会を築き上げるといふ高い理想を具体化することによつて、若手のボンボンの集団である」という批判はなくなる。同志的な結合の力を経済、政治問題、社会活動に発揮、指導的な立場にあることを自覚しようといふ意欲を示した。

また一九六四年度の事業計画として①経済四団体（神戸商工会議所、同経済同友会、兵庫県経営者協

会、神戸青年会議所）のひとつとして積極的に働きかける②企画室を設けて各種の問題を検討する③社会改良計画の推進④シンガポール、ジャカルタ、マルセイユなど姉妹JICとの積極的な交流⑤ローカルJICとの交流強化などを決め、意欲的な活動を繰り広げることになった。

海底散歩の夢実現へ

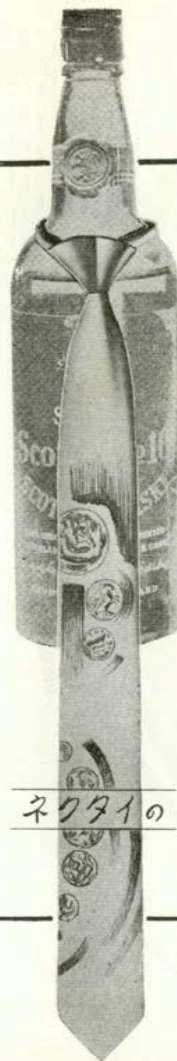
海底散歩は夢であつたところ、三菱重工神戸造船所が、これに挑戦。水中ケーブル船と潜水遊覧船の研究を完成し、いつでも建造に着手できる態勢となつた。

水中ケーブル船とは最近できようとしてゐる海洋国立公園に設置しようとするもので海岸から水中にケーブルを張り、水防構造の船体を車輪で動かし、深さ二五メートルの海底を散歩する仕組み、いつでも浮き上がるので安全性は高い。海底なので水面の潜水航行する船に邪魔されずに安全に定期運航できるので、その方面からも期待されている。水中ケーブル船の要目は、全長24米、幅45米、速力2ノット、乗客30人、排水量25トンである。なお、潜水遊覧船は水中にレールを敷いて潜水船を走らせるものであるが、いよいよ神秘的な海底のベールもぬぐわれそうだ。

美しさを創る…

アスター・ニュートン

トア・ロード③1818



S
P
R
I
N
G
TIES

ネクタイの

元町バザー

神戸×元町 TEL③1401

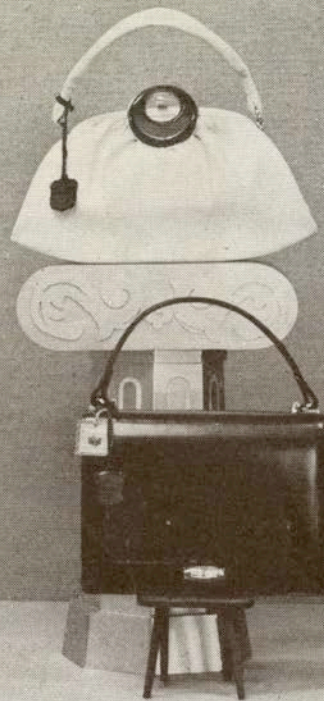
春を呼ぶマキシンの帽子



婦人帽子

マキシマ

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL ③6711~3 TEL (535) 5041



特選
ハンドバック
専門の店

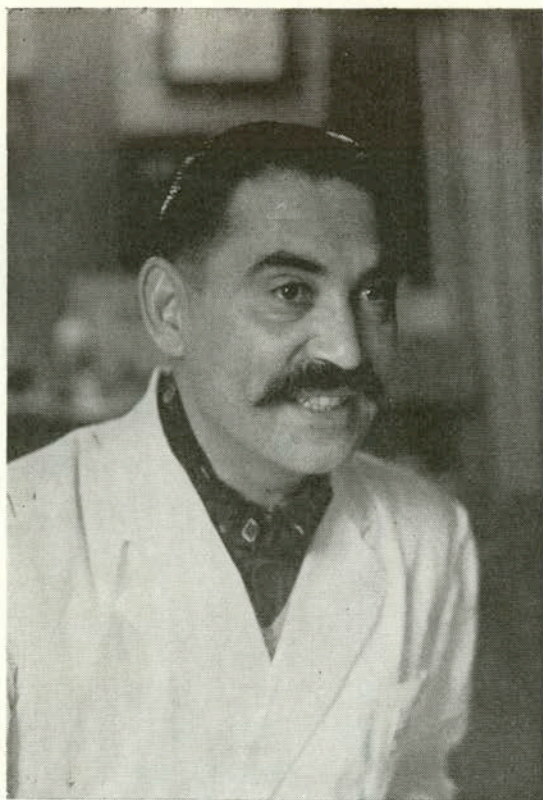
シラサ
元町2 ③0813

■ 神戸とエトランゼ ■

洋菓子パン界の名門

ハリー・フロインドリーブ氏を訪ねて

陳 舜 臣



「ゴールドメダル」の証書のかかったオフィスでフロインドリーブ氏

フロインドリーブの名で親しまれている店は、中山手一丁目の市電の市電停留所から、すこし北へあがったところにある。

こころみに、その店のまえに立ってながてみよう。ここは洋菓子屋さんだが、誰しも、すこしおかしいと思うにちがいない。

第一、ショウ・ウインドーがない。それどころか、窓がスキマのない扉で、ピツタリしめられている。

第二、横文字のガラス看板のなんとそっけなく、なんと小さいことか。

正式の名は、ジャーマン・ホーム・ペーカリ。代表取締役ハリー・フロインドリーブ氏の自宅は、北野町一丁

目で、じつは筆者の住居のすぐ近くである。ちらと見かけたことはあるが、ゆっくりお会いするのは、はじめてで、初対面といってよい。

「日本でのほうがなぐりましたよ。ドイツに二十年、日本は二十三年です」

正直なところ、筆者は小首をかしげた。そうすると、氏は四十三才なのか？ 失礼だが、もっとお年かと思っていたのである。やがて、筆者の誤解だとわかった。誤解の原因は、氏の堂々たるヒゲもその一つである。『カイゼルひげ』というのがドイツ原産かどうか知らないが名称からうける感じでは、そんな気がする。氏はお国ぶりのひげを生やしておられるのだろう。

もう一つ、家の近所で筆者はよく氏の何人かのお嬢さんをお見かけしたが、ずいぶん大きなお嬢さんがいらっしやる。だから、氏をかなりの年配だと思ひこんだのである。申訳ない。

戸籍しらべのようだが、ここにフロインドリーブ氏の経歴をざっと紹介しておく。

氏の父上は、第一次世界大戦のとき、中国の青島にいて、捕虜として、対独宣戦布告をした日本に連れてこられた。あとから思えば、そのとき青島から渡来したドイツ人というのは、日本で大きな足跡をのこしている。日本の洋菓子には彼らによって開拓指導されたといつてよい。変り種としては、聖徳太子十七条の憲法などの日本研究で有名なヘルマン・ボーン教授のような人もいたが、フロインドリーブ氏の父上は、名古屋で東洋一のパン工場である『敷島製パン』の顧問技師として、欧風パンの製造を指導した。氏はその時代に生まれた。育ったのは神戸で、『神戸っ子』を自認しておられるが、生まれは中京名古屋である。

いまの店は、父上が一九二四年に、名古屋を離れて来神し、創立されたのである。大正十三年だから、ことしで満四十年、当時の場所も、現在地とほとんどかわらない。

氏は十二才で、ドイツに帰国した。そして一九四〇年（昭和十五年）、二十才、シベリア経由で再び日本に来るまで、ドイツの学校で洋菓子とパンの製造を学び、『職人』の免許をえた。ドイツでは、菓子職人も国家試験で、その方面の特殊学校を出ても、見習を三、四年しないと職人免許が出ない。氏は出国のため、特別に許可をもらったそうだ。再来日は、父上の仕事を手伝うためだったが、昭和十五年といえ、そろそろ洋菓子どころではなくなってきた時勢である。

戦雲は世界を覆い、氏の祖国ドイツは各地に戦っていた。再渡日のつぎの年、ドイツ軍は東へ撃って出た。氏がつい一年前、日本へ来る時通ったポーランドやソ連が戦場となった。二十才だった氏が、神戸で質もわるく、量も不足がちな材料で、のうのうと洋菓子など造っておれないと思つたのは、けだし当然であろう。

東京のドイツ大使館に、海軍武官処というのがあった氏はそこへ登録した。当時は、同盟国だった日本に、ドイツの軍艦がよく来たものだ。氏はこちらですでに海軍の籍にはいり、日本に寄航した軍艦に乗って、勇躍、祖国へ帰った。その後、氏は *Kronprinz* という軍艦に乗ったそれは、軍艦というもおこがましものが、搭乗人員はたった一人なのだ。日本という特殊潜航艇であらう。一人で運転し、一人で雷撃する。小さな *Kronprinz* は母艦に吊り下げられて、河におとされたり、海におとされたり、西に東に転戦する。

戦いは終った。敗戦の母国で廃墟にしばし佇んだ若きフロインドリーブは、ふたたび洋菓子の道にはいる。彼の進むべき道は、はじめからきまっていたのだ。念願の洋菓子大学にはいる。職人免許取得後六年実地に就業した者だけが入学資格をもち、入試はきびしい。この大学は五年課程である。そこを卒業して、マスターの位を獲得する。

そして、一九五一年、三度目の日本へ。今から十三年まえのこと、最初は父上の店を手伝うつもりだった。だ



中山手一丁目にあるフロインドリーブの店

が系統的に最新技術を習った氏は、旧いしきたりを墨守する父上とことごとく意見が対立した。やむをえない。氏は神戸を離れて、名古屋の敷島製パンで技術指導をするようになった。奇しくも、父上が青島から来日したときについておなじ職に、二代目の氏も就いたのである。ぜんそくの宿病をもつ父上の健康が衰えたので、氏は急遽神戸に戻って、店をとりしきった。八年まえであるその翌年、旧い職人氣質の典型であった父上はこの世を去った。

その後のフロインドリーブについては、ご存知の通りである。評論家の吉田健一氏が日本一と折紙をつけ、文芸春秋に東京からの註文法まで書いて紹介したのはかなり前だった。

氏と話していると、話題は主に洋菓子とパンのことである。言葉のはしに、それにうちこむ氏の熱意がのぞく。おそらく四六時中そのことばかりを考えているのであろう。

洋菓子やパンについては門外漢である筆者は、手づくりの仕込みや日本唯一の煉瓦ガマによる製造などと説明されても、ピンとこない。ただそれが、アメリカ流の大量生産でなく、ひどく手のかかるものだということが、おぼろげながらわかる程度である。しかし吉田健一氏のほか、地元、食通である富田碎花、竹中郁の諸先生方が、このパンしか食べないことから、信用できそうな気がした。

筆者の興味は、食べ物よりも人間にある。氏の人間に接するに及んで、その人柄がフロインドリーブ・ファンの諸先生方の言葉より以上に、無条件の信用を私におこさせた。

さて、ここで、フロインドリーブの店の謎が、提起される。

ショウ・ウインダーがないのは、洋菓子やパンは、見本を見て買うものでなく、食べておいしいと思えば、また買いに行くものだからである。窓を扉で密閉するのは

食品製造販売業は、衛生を重んじるためだ。都会における街路の塵埃は、相当ひどいものである。住人たちはあまり気づかないが。食品を扱う者は、細心に注意しなければならぬ。客がはいりやすいように、オープンにするのが最近の店舗設計法らしいが、それは非衛生であるだから、フロインドリーブの店は、ピッタリと扉をとざしている。

一見、とっつきにくく、『なんだ、えらそうに構えて』と反感をもつへそまがりもいるだろうが、そんな人にべつに買ってもらわなくてもいいのだ。原則としてこの店は卸しは限られた昔なじみだけで、商売の拡張にはあまり意を用いていない。拡張すれば、どうしてもマス・プロ的製品になり、従来のもち味がなくなることをおそれているのだ。

看板がそつけなく、そして小さい理由も、それで察しがつくだろう。それは門札であって、宣伝用の看板ではない。だいたいこの店は、かつて広告をしたことがない。毎年二回、イースターとクリスマスころ、英字新聞に広告を出す、それも厳密な意味の広告ではない。こんな製品ができましたから、どうぞご覧になってくださいという『案内』にすぎない。ご覧くださいであつて、お買い上げくださいとは、けつして書かない。

フロインドリーブ氏の念願は、日本の洋菓子やパンをヨーロッパのレベルにもって行くことである。そのため氏は全日本パン技術研究所をはじめ、各地の同業者団体に、講師として講義、指導にまわっている。全国各地に氏のお弟子さんがいるわけだ。

「まだヨーロッパなみとまではいえないが、かなりよくなってきました」

これが、日本の業界を評した氏の言葉である。講師として出張するほか、氏の店には、三年契約で、各地の洋菓子屋さんから技術習得にきている。武者修行者なのだ。

「目と耳と口で、なんぼでも盗め」

氏は絶対の自信をもって、そう言う。技術はつつみかく

さず公開する。ただし、ぜったい同じ品がよそで造れるわけでないと思っている。なぜなら、煉瓦ガマがほかにないのだし、またソロバンが合わない製造がすくなくないからだ。売値四十円の洋菓子で、材料費だけで三十二円もかかっているのがある。気に入った品であれば、ソロバンを無視しても製造する気概も、よそでは真似ることができないだろう。

店の二階に、氏のオフィスがある。せまいスペースをフルに利用した部屋だった。

「どうです。潜水艦のなかみたいでしょう」

海軍あがりの氏は、そんなふうに自慢した。壁には、ドイツ洋菓子大学の『ゴールド・メダル』の証書がかかっていた。その大学を卒業して何年かたつて、はじめて「ブルー・メダル」の資格ができ、つぎに「シルバー・メダル」を経て、やつと取得できる位が、このゴールド・メダルで、卒業後二十五年かかるそうだ。氏は卒業後十三年で、それを取得した。先年帰国したさい、母校で日本の和菓子とそのデザインについて講演し、そうした特殊な功績が買われた結果であるらしい。

この世のなかの技（わざ）は、日に日にあじけない量産化へと進んで行く。そんな世相に抵抗する店が、何軒かあつてもいいだろう。それを支えるには、やはりフロインドリーブ氏のような、信念をもった人間の力にまたねばならない。

「私には後継者がいない」

お子さんがお嬢さんばかりなので、氏はそうおっしゃる。そんなことを言わずに、いいおムコさんでも迎えて、ぜひフロインドリーブの店を、末ながく続けるように、市民の一人としてお願いしたい気もちである。神戸の町を殺風景にさせないためにも、そう思うのが筆者一人ではないだろう。

（作家）



ローレックス
の時代です



特約店



美田時計店

神戸市生田区元町三丁目
TEL 三宮 (3) 1798



きものと細貨

東京 神戸

銀座店	新橋店	東	西
TEL	TEL	店	店
(571)	(571)	TEL	TEL
708	088	③	③
778	068		
210	236		
107	269		
階	(代)		

小松ストア地階

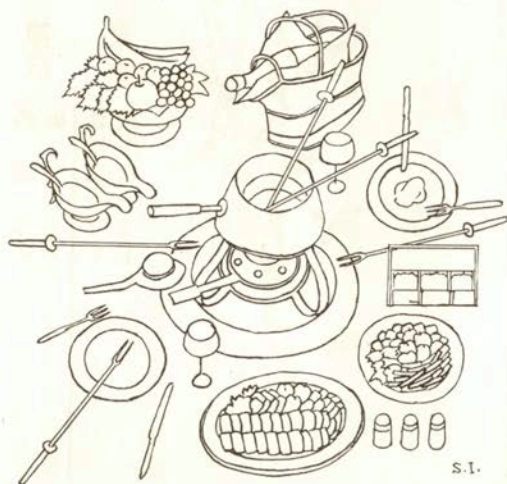


おんざら庵

FONDUE フアンデュ

レストラン コラル キタノ で
スイス鍋 フアンデュを どうぞ.....

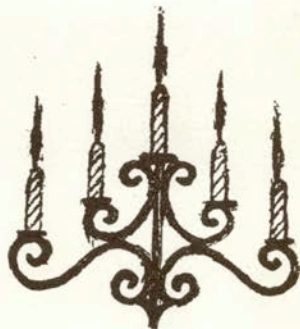
日本の すき焼と違って卓上で
調理出来る最上のスイス鍋の
風味を是非 お楽しみ下さい



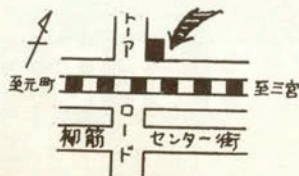
Restaurant
CORAL KITANO
コラル キタノ
TEL (23) 2251

最高を誇る神戸肉!

鉄板料理定食
650円
土、日、喫茶
キャンドルタイム



Grill & Tea Room
バター焼
喫茶 **candle**
きゃんどる



クラス会・コンパ
¥650より
営業時間
AM11.00~AM1.00
神戸三宮アロード
高架山側東角 99991